

令和3年度 第2回 精神保健福祉士養成学科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和4年3月18日（金）15：00～16：30

場所：zoom形式

参加者名

委員 阿部 未麻貴（医療法人社団総合会 武蔵野中央病院 相談室長）

委員 瀬川 聖美（社会福祉法人 本郷の森 理事長）

委員 関原 育（東京都精神保健福祉士協会 理事）

教員 岡崎 直人（精神保健福祉士養成学科 学科長）

教員 根本 典子（精神保健福祉士養成科 学科長）

職員 松木 健太（教務課）

1. 第1回教育課程編成委員会振り返り及び実施報告

岡崎より前回のまとめとそれに対する取り組みの報告が行われた。

～令和3年度 第1回教育課程編成委員会 振り返り～

<前回のまとめ①>

精神保健福祉士としての自身の将来像を入学者に具体的にイメージしてもらうために、入学前学習会の改編を検討する。対面に限定すると、コロナのこともあって回数が限られるが、zoomなどを活用すればその制約にこだわらなくてもいい。

岡崎)

1月16日に第1回の入学前学習会を実施し、36名入学予定者が参加した。内容としては『入学後のスケジュールについて』『精神保健福祉士について』『国家試験について』『入学前の今からできること』と新入生の関心の高い4つテーマにて講義を行った。

参加学生のアンケートをみると、精神保健福祉士の具体的なイメージ、将来のイメージ、いま取り組めること（行動目標）についてある一定の理解を得られたと感じる。また、今年度zoomで開催したことに対する感謝の声もあった。なお、3月21日に第2回の入学前学習会を予定している。

～参加者からの声（一部抜粋）～

- ・国家試験や就活について不安に思うことがあったが、少し解消された。
- ・精神保健福祉士についての職業理解も深められ良い機会となった。
- ・入学後の流れ、国家試験、就職についてなど、流れを掴むことができた。

・感情的なクライアントを前にしても、過去どのような体験を積んで今に至っているのかと
いうことを想像して共感できるよう、資格の勉強だけでなく、自己覚知、クライアント理解
にもしっかり取り組んでいきたい。

・まだ職業理解や将来のビジョンが定まっていないので、教えていただいた書籍や協議会の
ウェブサイト、就労支援施設などを訪ねてみたい。

・精神保健福祉士の仕事は病院や施設に限られると思っていたが、多くの分野で活躍できる
ことを知り、視野が広がった。

・オンラインで開催してくださり、誠にありがとうございます。

etc

※アンケート回答：26名

<前回のまとめ②>

学内実習には考えられうる工夫を施しているものの、特に医療機関は具体的な見せ方が
とても難しい。デイケアや半日程度の院内見学など、少しでも学生が現場の“空気感”をつか
み、患者と触れ合う機会を設けることを検討する。

岡崎)

施設の見学を2回、医療機関の見学を1回、松沢病院資料館の見学を1回の計4回実施
した。任意の参加ではあったが、参加した学生の満足度は高かった。しかしながら、参加人
数にも制限があり、かつ、正式な実習ではないため、病棟には入ることができないなど、利
用者との接触は限定的になるという課題も感じた。

<前回のまとめ③>

現場実習を何らかの形で代替にて振り替えた、いわゆる「コロナ世代」の卒業生につい
ては、卒後のアンケートによる何らかの検証が必要である。ただし、その実施にあたっては、
卒業生のプライバシーを守る点に最大の注意を払わねばならない。実施形態、可否などにつ
いて引き続き検討していく。

岡崎)

案として大きく2つ検討している。

◆メールを通じたアンケートの実施

卒業前に半年後、1年後にアンケートを実施する旨を伝えておき、メールを通じて学生
の声を集める。アンケート内容は細かく練れていないものの、『学内実習やZoomによって行
った授業という形態と現場の業務との関係について、やりにくさがあったか』について確認
したいと考えている。

◆数人の卒業生に集まってもらいグループディスカッションを実施

まだまだ案の状態だが、様々な意見を出し合うことで意見が深まるのではないかと考えている。今後も検討を継続していく。

<各委員からの意見>

瀬川委員)

アンケートの実施時期については、仕事に慣れるという観点からも、早すぎない時期が良いと感じる。また、国試後に就活をする学生が多いように感じるが、その点はどうか。

岡崎)

国試後に就活する学生も多い。学科としては秋頃には就職活動も本腰を入れるように指導しているが、社会に出るという不安もあるのか、なかなか浸透もしない。また、あまり言い続けるとプレッシャーになる学生も多く、どこまで強く伝えるか見極めが難しいところ。

2. 今年度学科報告と課題

岡崎より今年度の学科報告を行った。

◆国家試験結果報告及び国家試験対策について

今年度の合格率は 89.6%で全国平均を上回る合格率となった。国家試験対策としては学校として行っている年 3 回の模試のほか、学科内において各教員の国試特別授業を実施した。また国家試験実力チェックとしてインターネットを通じ学生に問題を配信した。

◆コロナ禍の授業について

多いときはクラスの半数が zoom での参加となり、演習などやりづらさを感じる部分があった。また、授業でわからない所や、些細な疑問を学生は放置しがちになっており、大きな課題と感じている。

◆実習について

施設実習については多くの学生が現場実習となったが、やはり医療機関は難しく、学内実習での対応となった。zoom を介しての患者さんとの触れ合いは『デイケア』でのみ実施となったため課題は残る。オンラインでの実習は職業イメージが掴みにくく、その結果就職への意欲が低下する可能性がある。来年度は状況によるが、学内実習を取り入れるにしても、時間数を短くした上で医療機関、地域施設の両方で現場実習を行っていけるよう検討している。今年度各委員の施設では実習は対応できたか伺いたい。

<各委員からの意見>

瀬川委員)

今年度は4校の学生受け入れ通常通りの実習を行った。しかしながら、コロナウイルスの感染拡大防止を目的に、利用者同士でもあまり話さないように指導しており、実習にきた学生にも申し訳ない気持ちもある。また、他校も含めコミュニケーションの苦手な学生が多くなってきているように感じており、指導者としても難しくなってきたと感じる。

関原委員)

受け入れは通常通り行ったが、感染者の多い時期などは利用者の人数を分けており、実習生の利用者との触れ合いという点では少し少なくなった。

阿部委員)

コロナ以前は年間6~7名を受け入れていたが、去年は3名の受け入れとなった。正直申し上げて平日5日間が精一杯と感じる。自由に病棟に出入りしてもらうのも、まだ厳しい状況のため、カンファレンスや面接をする際に同席させるというような接点を設けている。以前のように実習らしい実習になっているのかというと、疑問を抱きながら、という印象だった。

感染状況に大きく影響をうけるため、来年度も果たしてどこまでできるのか、悩まし状況が続いている。

岡崎)

本校としても施設実習は行えたものの、医療機関が難しく学内実習となった。今後も様々なご相談をするかと思うが、医療機関への実習に関しては、特にご相談させていただきたい。

◆退学者について

全体で10名の退学者が出たが、その多くが体調不良(多くがメンタル面)となった。退学者の時期を見ていると、前期実習前と前期実習中で7割を占めており、実習に対する不安や対人的緊張に関しては、実習先との連携を密にとり、学生のサポートをすることが必要だと感じた。

来年度の取り組みとしては、実習前個人面談を15分から30分に延長し、これまで実習経路の確認などに費やしていた面談を、学習理解度、就職、メンタル不調の配慮など内容の変更を行い手厚いサポートを実施していきたいと思う。

<各委員からの意見>

瀬川委員)

面談時間の延長と内容の変更は非常にいい案だと感じた。また、内容の変更も『学校に相談していいんだ』と感じていただける要因になると考える。

関原委員)

実際の現場に出るとストレスのかかる仕事も多いため、無理に働くと心身ともにダメージを受けてしまう。中退率という点ではあまり好ましくないかも知れないが、学校で学びながら、本当にこの仕事に就きたいと思えるのか、考える時間とすることも、その学生の人生においては良いこともあると感じる。

阿部委員)

面談の機会を増やし、細やかな対応を数か月に1回でもできたほうが良いかと思う。

岡崎)

実習中の面談などはあるが、なかなか時間の確保も難しく、今回の対策としては面談時間を少し伸ばす形となった。本来はもっと長い時間を確保したいが心苦しいところ。

3. 今後の課題

岡崎)

以前にも伺った内容になるが、『現場で活躍できる精神保健福祉士の養成』については大きなテーマとなるが、検討していきたい。改めてご意見をいただきたい。

阿部委員)

やはり専門職だからこそ、自ら考え答えを探せる力(自立した答えを出せる)を持つ方が必要と感じる。そういった力が学生時代に少しでも身につくと良いのではないかと感じる。

関原委員)

ずっと学んでいく意識は大事だと思う。現場にでると日常業務に追われ思考停止してしまう。そのままだと息詰まるため、自身の仕事を振り返る意識や場を持つことは大切。また地域で働いているからかもしれないが、ネットワークの意識は大事だと感じる。仲間を作っていき、様々な知見を広げていけると、将来的な支えにもなっていく。

瀬川委員)

一人で抱え込んでしまうのではなく、仲間と相談しながら様々な意見を取り入れ、解決の道筋を見つけていく力が望ましいと感じる。

根本)

仲間と協働しながら進めていくというのは、基本的なことになると思う。基本的なことだ

からこそ、学生にしっかりと伝え、意識的に協働することを刷り込んでいく必要があると感じた。

4. まとめ

- ・実習前個人面談は30分の時間を設け、実習にかかわる内容に留まらず、学習理解度、就職、メンタル不調の配慮などを確認していく。また、きめ細やかなフォローを実施するべく、サポート体制の構築を検討していく。
- ・現場で求められる精神保健福祉士を養成するべく、『自ら考える力』や『課題意識』、『課題解決のためのネットワークの構築』などは、まだまだ授業に落とし込めていない。現状のカリキュラムの中でどのように落とし込み、学生に浸透させていくか、継続し検討することが必要。

以上